

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助演習Ⅲ		選択	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
梅沢 佳裕	B310	y.umezawa	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的> ソーシャルワーカーとして、地域で生じている個人や家族等の生活のしづらさの理解を深め、共通課題を発見し、問題解決に向けたチームアプローチでの支援のすすめ方について理解することを目的とする。</p> <p><概要> 本講は、対面授業により教員と学生相互の応答で会話、プレゼンテーションの演習を行なう。授業毎の課題に学生が主体的に取り組むなかで、ソーシャルワークに用いられる重要な価値・知識・技術・態度を、事例を通して理解し、言語化できるように、コミュニケーション能力を高めていく。また、グループワークに取り組むなかで、メンバーがそれぞれの役割を意識し合い、効果的な学習を目指していく。</p>				
学習上の助言	本講ではソーシャルワークの価値を身につけるための援助技術を習得する目的から、その基盤となるソーシャルワークのグローバル定義、ソーシャルワークの定義（ソーシャルワーカー連盟）、バリエーションの7原則などを復習しておくことが望ましい。				
教科書	社会福祉士 相談援助演習 第2版/監修：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会/中央法規出版				
参考書	特になし。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの支援技術を取得できる。		HSU(3)、HSU(4)、WP(1)、WP(2)		
②	事例を通じて基礎基盤となる価値・知識・技術・原則を学ぶことができる。		WP(1)、WP(2)、WP(6)		
③	支援の開始から終結の相談援助プロセスを理解し、多職種連携の必要性を身につける。		WP(1)、WP(2)、WP(6)		
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション（本科目の意義、受講時の約束、講義の進め方、成績評価他）を行う。 医学モデル・社会モデル・生活モデルについて学習する。	演習・GW	シラバスを読んで全体像を把握してくる。	4	
2	問題解決アプローチに関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
3	問題解決アプローチに関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
4	ケアプランに関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
5	ケアプランに関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
6	地域福祉計画の策定に関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
7	地域福祉計画の策定に関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
8	地域におけるサービス提供に関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
9	地域におけるサービス提供に関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
10	地域におけるネットワーキングに関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
11	地域におけるネットワーキングに関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
12	地域における権利擁護活動に関する相談援助演習①について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
13	地域における権利擁護活動に関する相談援助演習②について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	
14	アウトリーチに関する相談援助演習について学習する。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4	

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

15	全体像を捉えたまとめ、フィードバックを行う。	演習・GW	演習テーマに関連する課題に取り組む。	4
試				

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	30	20	0	50	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	5	15
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	10	15
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	5	20
	コミュニケーション力	0	0	5	0	10	15
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	10	15
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法	
試験	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	レポートは、1回～5回の授業内容、6回～15回目の授業内容について、それぞれ課題の提出を求める。計2回のレポートをもとに、授業で学んだ内容を踏まえて、深めることができているかという観点から評価する。	採点をして学生に返却する	
	②			✓
	③			✓
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	グループワークにおいて成果発表を実施するが、発表者のみならず他のメンバーにおいてもそれぞれのグループ内での役割を自覚し、グループワークの進捗に積極的に参加できているかを総合的に評価する。	成果発表後に、どういう理解をしたのか講師から他のメンバーにも質問をする。	
	②			✓
	③			✓
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、課題の取り組みや記述等への意欲などの参加状況、授業への積極性などを総合的に評価する。	毎回の授業内で取扱い、フィードバックを行う。	
	②			✓
	③			✓
	④			
	⑤			
	⑥			

備考

実践的授業の内容：授業では教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の実例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。

全 15 回が登校型授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。また感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。